

# 編集委員のお薦め 桜の名所

今年もまもなく、桜の美しい季節を迎えます。そこで、本紙の編集委員がお勧めする、身近な桜の名所をご紹介します。

【神社】  
神社には、桜の木がたくさん植えられているところがあります。御園神社は、境内に大きな古木が数本あり、最盛期にはライトアップされ、夜桜を楽しむことができます。熊野神社の桜は道路に面して植えられ、道行く人の目を楽しませてくれます。



御園神社

安方神社は、環状八号線に面して桜の花が咲き、車を運転される方の心を和ませているようです。諏訪神社は境内に桜の木が数本あり、地面に落ちた桜の花びらがまるで絨毯のように、境内を桜色に染めています。



熊野神社

【呑川】  
西蒲田四丁目の太平橋付近では、毎年美しい桜を見ることが出来ます。昨年、この付近の川沿いの歩道の舗装が新しくなり、ピンク色になりました。この季節は、桜の花と歩道の舗装でピンク一色になります。西蒲田一丁目の日蓮橋付近は、川沿いに桜が植えられ、川を覆うように桜の花が咲き誇っています。橋の上からは、川にせり出した花々と川面に浮かぶ花びら、川面に映る桜の花が、とても美しく見えます。



呑川

【公園】  
大田区の公園には、桜の木がたくさん植えられています。皆さんのご近所の公園も、桜が咲いていませんか？近所の公園にお弁当やおやつを持ってプチ花見も楽しいですよ。

【日本工学院専門学校・東京工科大学】  
昨年、校舎改築で一般開放された庭園を囲むように、今年、桜の木が植えられました。これからきっと美しい花を咲かせて、私たちを楽しませてくれることでしょう。

他にも桜のきれいな場所がたくさんありますが、紙面の都合でご紹介できません。また、次の機会にご紹介いたします。皆様も、自分だけの桜の名所を見つけてみませんか。もし素敵な場所が見つかったら、

事務局までお知らせください。本紙でご紹介させていただきたいと思



日本工学院専門学校

## 蒲田西特別出張所管内

人口	男	29,899人
	女	27,292人
	計	57,191人
世帯	31,120世帯	

平成23年2月1日現在

情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などを事務局までお寄せください。  
事務局 蒲田西特別出張所  
大田区西蒲田七十一二一七  
(三七三二)四七八五

平成23年3月1日発行

# かま返し

発行 地域力推進蒲田西地区委員会  
編集 地域情報紙編集委員会

第39号

## わがまちの顔

民謡を歌ってボランティア 今井 克己さん



グループの佐藤さん、細貝さんの二人の女性がいらつしやいました。聞けば皆さん、近くのデイサービスセンターでボランティア演奏会をして帰ってきたばかりとのこと。この日は民謡のほかに歌謡曲、浪曲、童謡も含め、十曲ほどを約一時間にわたり、お年寄りたちに披露してきたのです。今井さんのグループによるボランティア訪問演奏は年間で八十回を超えるということでした。

「この地に店を開いて三十年ちよつと、こうして商売ができるのも地元の人たちのおかげ。演奏会にはご恩返しですよ。聞いてくれる人の中には一緒に歌われる方もいます。今日は握手までしてくれましたね。明るい笑顔を見せてくれるのが演奏会のご褒美だと思っておりますよ。歌うだけでなく、合間にいろいろなおしゃべりをして交流を深めています」

今井さんの故郷は新潟県北魚沼郡広神村大字兎畑。「地名から、どんな田舎か想像できるでしょ。去年、村の一部はダムの底に沈んで雪折(せつちゆう)湖」と名付

けられたそうです。冬は身の丈を超える雪。よく兎を捕りましたよ。夜はテレビのない時代、じいちゃんや尺八を吹きながら民謡を歌っていましたね。それを聞くのが楽しくて・・・私は民謡だけでなく、歌謡曲も好きになりました。とくに民謡調の三橋美智也の大ファンでした。歌好きが高じた今井さんは、民謡がやりたいと一念発起して、尺八と三味線の演奏も習得して今日に至っているのです。

店での話は弾みました。今井さんはケースから尺八を取り出し、佐藤さんと細貝さんに「大森甚句、やってみますか」と声をかけました。聞き終えると「二番目のヨーオーのところ、もう少し高く伸ばしたほうがいいかな」それは優し

く的確な指導ぶりでした。細貝さんは「私、ぜんそく持ちでしたが、歌うようになって治りました」と嬉しそうでした。最後に今井さんも一曲披露してくれました。自作の「大森海苔採り舟歌」です。哀愁を帯びた歌声が朗々と店に流れました。

「♪ハーハー秋西風(あきにし)吹く頃(なら)ナー竹(のり)ヒビ建てて ヨイシヨナー ヨイシヨナー 北風(ならい)吹く頃ナー ハー海苔を採るヨー」

(取材 山崎、六車委員)

# 三宝尊像と宗親伝説

大田区指定文化財である三宝尊像は現在、照栄院(池上一丁目三十一番十号)の寺宝として保存されているが、本像は近年まで月村家の内仏として代々伝えられていた仏像であった。

## 三宝尊像と月村宗親

三宝尊像の形状は八角蓮華座上の中央に光背を持ち、題目「南無妙法蓮華經」を浮彫りする塔婆を安置し、その左右の蓮台上に光背を負い合唱する如来坐像を安置した一塔両尊像で、木造寄木造り。高さは台座、光背を含め二十六センチの彫像である。

台座裏銘文によるとこの像は室町時代末期、天正三年(一五七五)に月村宗親逆修のため造像されたもので、月村家の菩提寺照栄院六世日説の開眼により、照栄院八世日濃の花押が附されている。

月村宗親は月村家の遠い祖先にあたる。なお逆修とは生前にあらかじめ死後の冥福を祈って仏事を行うという意味と、他に生き残った老人が若くして死したものの冥福を祈るという意味もある。

した刀工で来国行が祖と言われている。

共に奉納された小刀は後述の月村百太郎、大槍も縁戚の者が近代に蒐集した物らしく、伝来のものとは言えない。



## 宗親伝説

武蔵風土記稿には、池上本門寺第九世日純と月村宗親に関する不思議な話が載っている。

御園村の月村宗親の葬儀の最中、落雷とともに怪物が死者の右腕を持ち去った。導師日純が一心不乱に祈ったところ、空中で大きな音が響

武蔵風土記稿「御園村」の項に、地名由来は「この地あたりに月村宗親というものの居宅を構え小名久根下耕地に彼人花園を作りしことあれば村名をかき唱えり」とある。続いて行方弾正説にも触れているが両者ともあくまで推測である。しかし風土記文中では月村宗親の墳墓と、関

わりのある月輪霊神社、子孫の旧家百姓八郎右衛門や分家の甚五左右衛門等と、御園村に関する記事で紙面の大部分を月村家絡みで費やしている。

注目されるのは月村宗親の出自について、「宗親実月輪氏にて故ある人の支族なり 乱を避け民間に隠れし時暫らく月村を氏とす 故に神に祀るに及びて実の氏を神号とせるなり」とされど其確かなる事を聞かず」と記されている事だ。

十五世紀中ごろ、戦国時代に入ると関東は上杉氏、武田氏、千葉氏、足利氏、里美氏その他諸々の豪族が群雄割拠し鎌倉幕府に不満を抱き、あるいは関東管領を狙い百年以上もの間、鬩ぎ合っていた。いずれの側に属していたのか不明であるが月輪氏は敵対勢力に破れ、蒲田の地

き、その腕が戻ってきた。葬儀のあと日純はこのような怪しげな事が起きたのは、自分の不徳からと恥じて、本山を退き玉蔵坊(現常仙院)に隠棲した。以来噂がひろがり、雷除の護符を頂きに來るもの達が門前市をなした、と伝えられている。

この話について、本門寺史管見は次のように記している。  
「日純(九世)天文十八年(一五四九)冬、月村宗親の茶毘事件により退隠す」。この記述にて宗親死亡時期は確定できる。

## 年代の齟齬について

三宝尊像台座裏に記されている天正三年(一五七五)より、風土記に記されている宗親伝説の天文十八年(一五四九)が二十六年遡ることになってしまった。葬祭されているはずの宗親が二十六年後に三宝尊像を造ったことになるのだ。「大田区史」には『この人物は後裔か、未詳』と書かれている。ここで台座裏銘文を振り返ってみると、逆修のもう一つの意味「生き残った老人が若くして死したものの冥福を祈る」この解釈なら、宗親は意外に早世だった。本人はすでに祀られていた。あるいは尊像制作は二代目宗親なのか。

また三和五年(一六一九)十二月二日、十六世日樹上人より三代目月

に通れここに住み着いた可能性も十分考えられる。



## 菩提寺照栄院

月村家の菩提寺照栄院の境内、本堂の左手に月村宗親の石碑がある。三段の基壇を含め高さは二メートル五十七センチ以上もある。碑に刻まれた文面は以下の通りである。

石碑正面の銘は、  
天正三年乙亥歳八月二十八日  
月輪越後守入道宗親之碑

右側面の文字は、  
月村氏の先祖月輪越後守入道宗親の靈屋は大田区女塚四丁目十七番地の月村先祖の神社に祀られてあったが第二次世界大戦の末期昭和二十年四月十五日東京大空襲の際被害を蒙り焼失した その後女塚地区区画整理

村源太左衛門に曼茶羅を授ける」と本門寺史管にある。年代の齟齬も、月村家と本門寺の四百年を超える悠久な歴史の一駒と捉えて、無理に帳尻を合わせることもないのではないか。

## 月村家

月輪の姓は、月村家と改められ、以後、昭和の初期まで代々蒲田の豪農として存在してきた。宗親から数えて十七代目が蒲田村初代村長、月村惣左衛門で、明治三十七年のJR蒲田駅開設のために貢献した(本紙十一号)。月村総本家は惣左衛門の長男、十八代百太郎の代になりこの地を離れることになったが、現在も蒲田周辺には月村姓を名乗る多くの人々が居住する。

昭和十五年の蒲田駅付近の地図には、旧月村本家、月村百太郎家跡地(旧女塚四丁目二十番地一帯)の東側道路を挟み、鳥居マークがある。ここが前述の石碑に記された月輪霊神社である。さらに屋敷跡から西に延びる道路が、終戦後まで駒引通りと呼ばれていた。往時には付近に馬場もあったのではないかと。さらに屋敷跡の西側を南北に走る道路(駒引通りと直角に交差)は屋敷通りとよばれていた。古老の話だが、屋敷周りには構え堀と言われた堀の跡が残っていたと言う。

があり該地に霊屋の再建が困難となつた為昭和三十六年九月子孫相會し霊屋の地中に保管してあった帯刀二振は国が永久に格護する様に博物館に保管を依頼し先祖の霊札及び神社建立時の世話人名札を菩提寺地上の照栄院の境内に祀り 永く先祖の菩提を希うものである

昭和三十六年九月吉辰  
朗慶山照栄院第百十三世日顯誌之  
背面の文字は

後記 この碑を建てて後事情が変わり月村神社に傳る太刀(山城之往来末行)一振 小刀(村正)一振 大槍一本は照栄院に保管することになった 又月村総本家に傳る三宝像も当山に納められた

まず正面の天正三年は月村宗親の命日ではなく、三宝尊像の造像日時である。月輪越後守入道宗の入道とは、出家して仏道に入った人をいう。しかし過去の日本では皇族や公家、地位の高い人々が在俗のまま像形となり仏道を修行する篤信、強信の人も入道を名乗った。月村宗親も高い地位にあったことは確かである。地域一帯を束ねていた豪族の長であったことは明らかである。

月輪霊神社の地中に保管されていた太刀の刀工、来末行は来重康の一子で来秀次の門人である。来派(らしい)は鎌倉時代中期から南北朝時代にかけて山城国(京都府)で活躍

## 取材後記

今回、取材のため月村良弘様(大田区西蒲田六丁目在住)に協力をお願いし、貴重な資料等を拝見し、助言も頂きました。良弘様の尊父忠作(雅一)様は若い頃より月村家の歴史に興味をもち、年月をかけ月村家にもつたる資料の蒐集に歩いていました。

三宝尊像に出会ったのは、神奈川県藤沢に移転した本家、百太郎氏の娘キク様を、昭和四十五年頃に尋ねた時でした。

「こんな物が家にある」とキク様が手にしていた物は、何個かに分解され、埃にまみれた小さな仏像らしき物でした。許しを得て家に持ち帰り、調べたところ由緒ある仏像らしく、浅草の仏師に補修組み立てを依頼しました。やがて月村家のみならず大田区にとつて歴史的価値のあることが分かり、区の文化財指定の通知が出るまで大切に保管し、後に菩提寺照栄院に奉納されました。

## 参考文献

大田区史 大田区の文化財  
本門寺史管見 新編武蔵風土記  
刀工大鑑

(取材 都築、伊藤、稲岡委員)